



東日本大震災 から1年

～地震災害に備えて～

平成23年3月11日午後2時46分、東日本大震災が三陸沖を震源として発生。城里町でも震度6弱を記録し、大きな被害を受けました。

震災の日から間もなく1年が経過しようとしています。あらためて、震災時の状況を振り返り、地震にはどのような備えが必要かを考えてみましょう。

● 城里町の被災状況

東日本大震災の長時間にわたる大きな揺れにより、多くの家屋が屋根瓦の落下や塀の倒壊などの被害を受け、町内の道路も陥没や土砂崩れなどが多数発生しました。

また、震災発生時から3日間にわたり停電したため、広範囲で通信手段が断たれ、情報収集・提供が全くできない状態に陥りました。さらに、水道施設においても町内5箇所の浄水場が稼働停止し、町内全域で断水が発生したため、飲料水や生活水の確保が困難となりました。

これらの影響で、家庭では電化製品が使用できなくなるとともに、飲料水や食料品など生活必需品の入手が困難となり、日常生活に重大な支障が生じました。

○家屋への被害 (平成24年2月7日現在)

全壊/15棟、半壊以上/244棟

○避難所への避難者数

ピーク時1,000人超

○町施設等の被災状況

- ・役場本庁舎、桂支所、坏地区公民館、常北中学校(旧校舎の大半)、かつら保育所が損壊により使用不可。常北学校給食センターは復旧工事のため稼働を休止している。
- ・道路の被災箇所(軽微な箇所除く)/約150か所、通行止め/震災直後10か所→1月4日現在なし

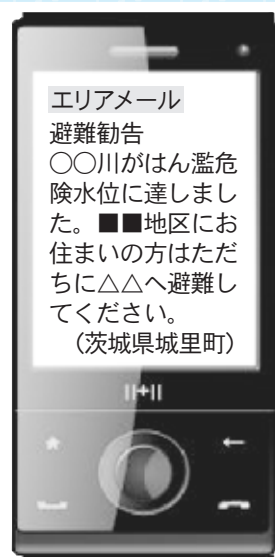
【町道8-0595号線復旧前後の様子】



▲復旧前



▲復旧後



※画面はイメージです。



- ・城里町内に一斉配信されます。
- ・緊急地震速報とは異なる専用警告音でお知らせします。



情報の
配信を依頼



城里町役場

城里町では、3月1日からNTTドコモの「エリアメール」サービスを活用した災害発生時の連絡手段を導入しました。
エリアメールは、町内の送信エリア内にあるNTTドコモの携帯電話(二部古い機種を除く)に対し、避難勧告・指示や警戒区域情報、洪水情報、土砂災害警戒情報などを一斉に配信するものです。

エリアメールによる情報提供

地震が発生したとき、被害を最小限に抑えるにはどうしたらよいか？

まず、一人ひとりが地震について関心を持ち、日頃から正しい心構えを身につけておくことが大切です。実際に発生した被害や、自らの体験を生かしながら、地震に対する備えを、この機会に家庭などで話し合ってみましょう。

防災マニュアルその①

家庭での防災会議

地震の時に家族が慌てず行動できるよう、日頃から話し合い、情報を共有しておきましょう。

- 地震はいつ起こるかわからないことから、時間帯や誰が在宅してるかなど様々なケースを想定し話し合っておきましょう。
- 話し合いでは、想定したケース毎に分担を決めるほか、高齢者や乳幼児など家族構成も考慮し、次のようなことも相談しておきましょう。
 - ・家の中でどこが一番安全か
 - ・避難場所、避難路はどこか
 - ・非常持出袋はどこに置いてあるか
- 住所、氏名、連絡先や血液型などの自分の情報を記載した避難カードを作成し、普段から携帯しましょう。



防災マニュアルその②

家族との連絡方法の確認

家族が離ればなれで被災したときを考えて、お互いの安否の確認手段を考えておきましょう。

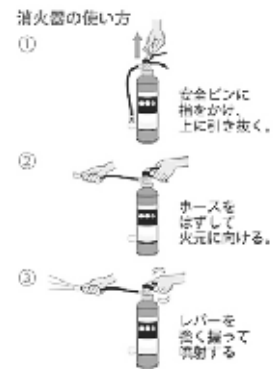
- 家族が離ればなれで被災した場合、自分の身の安全が確保できたら、次は家族の安否を確認しましょう。
- 被災地では、連絡手段が限られていますので、公衆電話等から利用できるNTTの「災害伝言ダイヤル171」や携帯電話の「災害用伝言板」などのサービスがあるので活用方法を知っておきましょう。

防災マニュアルその③

火災を防ぐ・火災に備える

地震による火災が発生すると大きな被害をもたらします。火災を出さないためには日頃からの備えが大切です。

- 時間帯や季節、場所などによって出火の危険性は異なります。様々な状況をイメージして出火防止に努めましょう。
- 消火器の正しい使い方を理解し、いざという時に使いやすい場所に備えておきましょう。
- また、消火器には有効期限があるので確認しておきましょう。



防災マニュアルその④（もし地震が発生したら？）

身の安全の確保

まずは周囲を確認。身の安全を確保しましょう。

- あわてて行動すると、転倒した家具類、飛び散ったガラスの破片等でケガをする恐れがあります。
- 小さな揺れの時、または揺れがおさまった後に、窓や戸を開け、出口を確保しましょう。